令和 6 年 12 月 17 日発行

U-NITS vol.5

U-NITS：「研修観の転換」に向けて NITS が挑戦している様々な取組について発信し、
全国のみなさまと「新たな教職員の学び」の協働開発を図るためのメールマガジンです。

Ⅰ）NITS Learning Hub

今年度、NITS 東京事務所の一部を改修し、新たに「NITS Learning Hub」としての機能を追加し運用を開始しました。「教職員は、どのように力量を深めていくか」、「『教職員の新たな学び』をどのようにデザインすればいいか」といった問いを念頭に、多様な人が自分たちの学びや研修の在り方について少し立ち止まって考え、多くの仲間と語り、つながることができる場になるよう願っています。

これまで、「シリーズ：教職員としての在り方を考える」を 3 回、「シリーズ：研修観の転換に向けて」を 5 回、計 8 回のセミナーを開催しました。各回の定員は 20 名で、全国各地からお申し込みをいただきました。1 回約 3 時間の中で、省察や対話、資料の読み込みを通じて、教職員としての自分自身の在り方や、研修の在り方を問い直したり、探究したりするきっかけが参加者の中に醸成されることを目指しています。

「シリーズ：研修観の転換に向けて」の参加者の感想をご紹介します。

「情報や知識を与え過ぎてもだめですし、与えなさ過ぎてもダメなので、ちょうどよいバランスを見つけていくことが重要だと思いました。また、すべての研修で適用できるかについてもしっかりと吟味して検討することが重要だと思いました。改めて多面的・多角的な視点というのが大切であると認識しました。そのために心の壁を取り除くことも大きな気付きです。」

12 月 17 日(火)と 1 月 24 日(金)には、「私たちは、どのように子供たちと関わるのか」という問いを基に「生徒支援探究」をテーマとして開催します。今後も多様なテーマを扱いながら、東京事務所の地の利を生かし、豊かに学び合える場を創っていきたいと思います。ぜひ「NITS Learning Hub」へお越しください。

※開催予定、申込等の詳細はこちら
NITS Learning Hub
▼https://www.nits.go.jp/training/seminar/021.html

Ⅱ）NITS マネプロ*1
「これまでの学びと実践の振り返り、現在の課題・問いの共有」

令和 6 年 9 月、NITS では今年度第 10 回となる「研修マネジメント力協働開発プログラム（略称：マネプロ）」を実施しました。テーマは、「これまでの学びと実践の振り返り、現在の課題・問いの共有」。今年度から NITS に来て一緒に「研修観の転換」について考え試行錯誤している職員や、昨年度 NITS の職員として一緒に考え、今年度は各地域の教育委員会・教育センター等で実践している職員を交え、それぞれの歩みと展望をグループで聞き合いました。

4 人程度のグループで、一人あたりの持ち時間は 35～40 分。参加者はそれぞれの時間で、自身のこれまでを捉え直したり、これからの実践に向けて、今抱えている問いを共有したりしました。合計で約 3 時間。長いようであっという間の時間です。

参加者からは、

> 「改めて現在取り組んでいることを対話の中でアウトプットしていくことで、新しい発見や気づきがあった。」
>
> 「NITS 勤務を経験した上で、各地で実践に臨まれている方々のお話は、文字通り「理論と実践の往還」を語るものとしてものすごく自分事化された。」

といった感想がありました。

NITS ではこのように、研修を企画する職員同士が学び合い、「対話」や「振り返り」の良さや意義を自分達自身で実感しながら、その感覚や体験を研修企画やファシリテーションに繋げています。今後も「研修観の転換」に向けた事業の土台の部分として、このような「マネプロ」の学び合いの場を充実させていきたいと思います。

NITS 戦略

▼https://www.nits.go.jp/about/strategy/

※ページ内に「マネプロ」の概要がございます。

Ⅲ） 「研修観の転換」に向けた自治体との協働

「課・班を超えた学び合い」

長崎県教育センター 特別研修員[*2] 畑中 竜太郎

今年度、長崎県教育センターで取り組んだ主な活動をいくつか紹介します。

1. 研修改善の視点設定

今年度の研修改善の視点は「省察から探究へ」です。参加者が、実践の捉え直しを通して、自己の価値観を振り返り、気付くことに重点をおいた研修から、その気付きを契機に、新たな問いを立て、主体的な実践を生み出すまでの研修へと発展させたいという想いを込めて設定しています。

2. 玖島の杜研修会（通称：くし研）

長崎県教育センターは、旧大村藩玖島城跡で桜や花菖蒲の季節には県外からも多くの人が訪れる「杜」の中にあります。そこで、「玖島の杜研修会」と銘打ち、全所員が研修改善の視点を基に研修デザインについて考える場として、年 4 回「くし研」を実施しました。この場では、所員同士が対話を通じて理解を深め、より効果的な研修のあり方を模索しました。

3. 長崎版マネプロ（通称：N-café）

中教審答申及び NITS からの提案等に示された語句の意味や、「新たな教師の学び」に関する基本的な考え方について、希望する所員が各自の問いを持ち寄りながら対話を行いました。これまで 3 回実施し、参加者の理解を深める場として機能しています。

4. 全所員体制でのファシリテーター

11 月に開催した研修講座「公立学校教職経験 15 年経過教員研修（16 年目）＜継続-後期＞」では、26 グループすべてに所員がファシリテーターとして加わりました。事前にファシリテーター打合せ会を、事後に研修リフレクション会を開きました。

このような取組を通じて、所内では課班を超えた所員同士の対話が活発化し、研修デザインを学び合う姿が日常的に見られるようになりました。思考も「～せねば」から離れ、「参加者目線で考えると～」に変わっていっています。まさしく所員自身が、探究心を持ち自律的に学び

続けており、必ず研修の企画・運営によい影響を与え、「研修観の転換」につながると考えています。

最後に、ファシリテーター打合せ会に参加した所員の感想を紹介します。

「今回の会は非常に有意義で楽しいものでした。研修内容を知ることだけでなく、『今回の研修が目指しているものは何か』『ねらいに迫るための省察をどう捉えているか』『どのようにファシリテートを行えばよいか』を会に参加した全員で共有することで、講座の目的に効果的に迫ることができるだろうと思いました。また、その後の『ファシリテーションの練習』も素敵な演習でした。私自身、ファシリテートを苦手としており不安がありましたが、『聞いてみたいと思ったことを聞く』の思いをもって臨むことで、話し手の思いを引き出せることを実感できました。課班を超えて、ファシリテーションや省察の捉えを共有することの重要性を感じることができました。」

Ⅳ）研修マネジメント力協働開発プログラム（近畿版）の開催

NITS では、「研修観の転換」に向けて学び合うコミュニティが、教職員研修を実施している各地の組織（NITS、教育センター、教職大学院、学校等）の中で形成され、つながっていくことで、「教職員の学び」に関する共創分散型の「学び合いのコミュニティ」が全国で形作られていくことを目指しています。

そのような発想のもと、近畿地域において、令和 7 年 2 月 28 日（金）、立命館大学朱雀キャンパスを会場に、研修マネジメント力協働開発プログラム（近畿版）（「マネプロ（近畿版）」）を実施いたします。本研修は、学び合いのコミュニティ」の形成やそれを通じた教職員研修の深まりが醸成されるよう、近畿地域の研修担当者等が、「教職員の学び」の在り方を協働的に問い、考え合う機会を提供するものです。詳細は、当機構ウェブサイトにおいて近日公開いたします。ぜひご参加ください。

研修・セミナー

▼https://www.nits.go.jp/training/

Ⅴ）動画教材のご案内 シリーズ「これまでの研修、これからの研修」

シリーズ「これまでの研修、これからの研修」では、全国の研修担当者と協働して「研修観の転換」に向けて、よりよい研修の在り方を問うていく契機となるよう「教職員の学び」についての動画を新たに作成しました。

シリーズ「これまでの研修、これからの研修」

▼https://www.nits.go.jp/materials/trainingView/

*1）研修マネジメント力協働開発プログラム

NITS の職員研修の一つ。「新たな教職員研修とはどういうものか」等の問いを立て、研修のデザイン、ファシリテーション等について資料の読み込みや対話を重ね、試行錯誤を繰り返すことを通じて、研修マネジメント力の向上を図る取組。（略称：マネプロ）

*2）特別研修員

令和 5 年度より NITS が立ち上げた、「『新たな教職員の学び』協働開発推進事業」において、各自治体より派遣される研修員のこと。基本的に、1 年間は NITS に勤務し、NITS の研修担当者として研修のデザインにあたるとともに、派遣元の研修デザインにも参画する。2 年目は派遣元に戻り、NITS と連携しながら、研修観の転換を進めるための実践に取り組む。

※このメールマガジンは、教育委員会、教育センターの方々を中心に、全国で教職員研修に携わっている方々に向けて配信しています。教育委員会、教育センターの職員やご関心がありそうな方々に、広く共有いただけると幸いです。

独立行政法人教職員支援機構
教職員の学び協働開発部　連携推進課